

第422号 10月号 2019.10.21

岐阜県 商店街だより



発行元：岐阜県商店街振興組合連合会 岐阜市藪田南 5-14-53 TEL：058-277-1107

でっかい恐竜にびっくり！ ジュラシックアーケード

◆主催：柳ヶ瀬ジュラシックアーケード実行委員会・後援：岐阜柳ヶ瀬商店街振興組合連合会など

9月28、29の両日、柳ヶ瀬商店街一帯で「柳ヶ瀬ジュラシックアーケード2019」を開催しました。今年で第9回を迎える大人気のイベントです。お子さん連れの来街客で商店街はにぎわっていました。

■地域密着の商店街ならではの

大きな翼を広げて、滑空する翼竜。アーケードの天井から下がっているのは、プテラノドンの模型でした。動くロボットを作っている「郡上ラボ」の恐竜は、今にもわたしたちを襲ってきそうな迫力があります。お子さんはもちろん、大人も見上げてはスマホで写真を撮影していました。模型の脇には恐竜の生態を説明する看板が立てられ、大人も子どもも楽しめるようになっています。



▲人目を引いたプテラノドンの模型

このジュラシックアーケードの楽しみの一つが、スタンプラリーです。1枚300円でスタンプラリーカードを購入し、全10か所の恐竜わきのスタンプコーナーを回ると、サメの歯の化石がもらえるのです。伺ったのは開始1時間後の午前11時ごろでしたが、そのころにはすでにすべてのスタンプを集めたお子さんが、本部の景品交換所に並んでいるほどの人気でした。

スタンプコーナーでは地元の中学生在が案内役を務めていました。話を伺うと、ボランティアとして参加しているのだそうです。小さなお子さんがスタンプカードを持ってくると、笑顔で迎えていました。**地元の中学生在がイベントに喜んで参加するのは、地域に密着した商店街ならではの光景です。**



▲ラリーの押印を受け付ける中学生

■今年のテーマは世代交代

イベントは長く続くことによって、マンネリ化してきます。ジュラシックアーケードの実行委員長で、岐阜柳ヶ瀬商店街副理事長の岡田さんは以前、イベントを長続きさせるコツをおっしゃっていました。

「イベントごとにテーマ・課題を設けることによって、マンネリ化を防ぐことができます」

と。そこで、今回のジュラシックアーケードのテーマをズバリ尋ねました。

「今年のテーマは、世代交代です。これまでおよそ5年、わたしが実行委員長を務めてきました。表向き、今年も実行委員長はわたしになっていますが、実際の運営は若い人に任せています」

世代交代に本格的に取り組んだ結果はどうだったのでしょうか？

「昨年まではわたしが決めて他のメンバーに指示を出すという、どちらかというとトップダウン形式でした。今年は若い方が皆さんで話し合っていて決めていくという、チームワークを活かした運営になったと思います」

スタンプラリー以外にも、化石の発掘体験や巨大ティラノサウルスとの記念撮影、フードブース出店なども開催し、人気を集めていました。今年のジュラシックアーケードも大盛況に終わりました。世代交代を成し遂げたジュラシックアーケード、来年度も楽しみです。

まちゼミ初のコラボ企画 和菓子とコーヒーとワインのマリアージュ

◆主催：大垣市商店街振興組合連合会

本紙2019年4月号で、大垣市商店街振興組合連合会(大垣市商連)の「まちゼミ」について取り上げました。その記事で、まちゼミのリーダーである上野さんが「複数店舗のコラボを考えたい」とおっしゃったことをご紹介します。今秋のまちゼミでコラボ企画4講座が実現しました。

■和菓子・コーヒー・ワインのコラボ

取材に伺ったのは、コラボ企画の一つ、「和菓子とコーヒー、ワインのマリアージュ体験」です。講師は、金蝶園総本家本店の北野さん(和菓子)、珈琲幸房多香の高木さん(コーヒー)、ムトウさかやの上野さん(ワイン)の3名でした。この少し風変わりな組み合わせについて、高木さんが説明してくれました。

「もともとはコーヒーとワインの組み合わせを考えていたのです。ただ、ワインの味わいのようなコーヒーは作れるのですが、コーヒーのようなワインがないとのことで、企画が行き詰まってしまうました。そんな時、話を聞きつけた北野さんが『和菓子を加えれば実現するのではない

か』と言ってくれたのです」

コーヒーと和菓子との組み合わせは想像できるにしても、ワインと和菓子との組み合わせは想像しづらいところがあります。講座開始前に北野さんに伺うと、

「なにしろ我々にとっても初めての取り組みなので、うまくいくかどうか未知数です」

と、半ば緊張し、半ば楽しんでいるような面持ちで答えてくれました。



▲コーヒーを用意する様子

当日の参加者は、男性2名、女性2名の合計4

名でした。2名の方からはまちゼミ初参加だと教えていただきました。この講座に参加した理由を伺ったところ、「同じ講師による別の講座を申し込もうとチラシを見ていたら、こちらの講座も目に入り、マリアージュって面白そうだと感じました。両方の講座を申し込みました」とのことでした。

■コーヒーと和菓子

まずはコーヒーと和菓子との食べ合わせを楽しみました。コーヒーは薄くいれたものと濃くいれたもの、和菓子は栗きんとんと伝統のおまんじゅうで、4とおりの組み合わせの味を比べます。

コーヒーをいれている合間には、和菓子に関する説明がありました。栗きんとんは栗と砂糖のみで作り、丁寧な仕事が味に反映されること、おまんじゅうは餡のしっかりした味と砂糖を使わない皮の生地が魅力であること等、地元の方が普段口にしていないお菓子でも隠れた工夫がされています。



▲和菓子の説明を聞く参加者

薄くいれたコーヒーは、栗きんとんのほどよい甘さと合い、濃いコーヒーはおまんじゅうのしっかりした甘さに負けない味・香りを持っている——。参加者の皆さんは高木さんの思惑どおりの反応を示したようです。高木さんからは、豆の種類や焙煎で味や風味が大きく変わることの説明がありました。

■ワインと和菓子の組み合わせ

続いて、ワインと和菓子との食べ合わせです。ワインは甘口のスパークリングワイン、酸味のある白ワイン、濃い赤ワインの3種類、和菓子は上生菓子とチーズケーキの中に餡が入った「あんほわ」というお菓子です。ワインの専門家、ソムリエの資格を持つ上野さんも、「実際に何が合うか、ぼくも正解を持っていません」と言うぐらいにチャレンジングな取り組みのようです。

甘口のワインと上生菓子の組み合わせは参加者全員が首をかしげました。上野さんも口に含んで、「あ、これはダメですね」と言うと、会場が笑い声に包まれました。参加者の方によると、スパークリングワインの刺激が和菓子の良さを打ち消してしまうのだそうです。



▲ワインと和菓子の組み合わせを楽しむ

白ワインと上生菓子との組み合わせは、「あんほわ」との組み合わせに比べると、おいしく食べることができたそうです。それでも、「どちらかといえば食べられるというくらいで、積極的に……」という声が大半でした。

濃いワインと「あんほわ」の組み合わせは、参加者の皆さんから「おいしい」という声があがりました。渋みの少ないワインだったので、あんほわの餡の味と合うのだそうです。

「和菓子には長い歴史があります。ワインにも長い歴史があります。にもかかわらず、この組み合わせに誰も挑戦しなかったのは、それなりに理由があるのですね」

上野さんの身もふたもない講評に会場内では笑いが起き、講座は和やかな雰囲気で行われました。

■今後の展望

この講座は参加者10名の定員を設けていました。初めは6名の参加希望がありましたが、2名のキャンセルが生まれ、4名になったそうです。当初の想定より参加者が少なくなった原因として、講座のタイトルがわかりませんでした。「マリアージュという言葉は、飲食業ではよく使うのですが、一般のお客さまには通じないよう

ですので、改善する必要がありますね」

最後に上野さんから今後の展望を伺いました。

「今回のコラボ企画は、初めての取り組みということもあり、人気講座を持つ店舗同士で実施しました。今後は、まちゼミで善戦している店舗と苦戦している店舗とを組み合わせ、ノウハウを横展開したいと考えています」

「まちゼミでも、以前は各店舗が努力すればいいのではないかと考えていました。しかし、まちゼミも10回を数えるようになって、他の店舗にも目を配る必要があると考えようになりました。商店街の店舗は、商店街から逃れることはできません。商店街が衰退すれば、個店も衰退につながります。商店街は運命共同体なのです」

まちゼミ発の店舗紹介 空き店舗ツアー

◆主催：大垣市商店街振興組合連合会

大垣市商店街振興組合連合会（大垣市商連）では9月21日から10月31日まで、第10回「まちゼミ」を開催しています。商店主から専門的な知識を得られると好評のまちゼミ。今回は全34の講座をセッティングしました。その中の一つ、毛色が変わったタイトルの講座があります。

「空き店舗ツアー」

いったい、どんな講座なのでしょう。9月25日午前に開催した講座にお邪魔しました。

■まちゼミ開催まで

当日、講座に参加したのは、女性4名、男性1名の計5名でした。伺ったところ、どなたもまちゼミは初めてという方ばかりでした。

「わたしもまちゼミの講師は初めてですので、緊張しています」

講座のはじめに、講師の五藤さんがユーモアを交えてあいさつしました。五藤さんは大垣市

商連の「空き店舗撲滅プロジェクト」のタウンマネージャーを務めています。

空き店舗撲滅プロジェクトとは、大垣市商連、大垣市、大垣商工会議所が協力して中心市街地・商店街に出店を促し、空き店舗を減らすプロジェクトです。五藤さんは本業の不動産仲介業のノウハウを買われ、プロジェクトの中心メンバーになりました。昨年度からは中心市街地・商店街を4つのブロックに区切って、1年度1ブロックずつ空き店舗の調査を実施しています。

昨年度アンケート調査したブロックでは、200件の店舗オーナーのうち、20件から貸してもよいという回答を得たそうです。今回の「空き店舗ツアー」では、これまでに貸してもよいという申し出を受けた4店舗を実際に見て回ります。

■空き店舗ツアー

1 店舗目は駅に近いビルの2階25坪の部屋でした。オーナーの希望する業種は店舗または事務所だそうです。参加者の一人から、「共用部分の清掃は共益費に含まれているのですか」という質問が出ていました。



▲物件の説明を聞く参加者

2 店舗目は、店舗とアパートとが入居する複合ビルの一室です。元は料理教室として利用していました。築年数が古く、床も板張りのままでしたので、参加者にはこの部屋で店舗を営むイメージが湧きづらいようでした。五藤さんによると、「この物件のリフォームの見積もりを取ったところ、何百万円という金額になりました。借りてもらえる保証がないなかで、オーナーがこの金額を負担するのはつらいのです」ということです。借り手の負担も、オーナーの負担も減らす仕組みが望まれます。

3 店舗目は商業ビルの一室です。オーナーの希望業種は事務所です。古い空調設備がありますが、すでに作動しないそうです。「こういうのって、撤去するのも、設置するのもけっこうなお金がかかるのよね」と、参加者の一人がおっしゃっていました。

4 店舗目は駅前通りに面した店舗です。商店を営んでいたときのまま、商品が並んでいて、往時の雰囲気をしのぶことができました。

「水道を取ることができないので、食品関係は難しいです」

とは五藤さんの説明です。参加者の一人は、「ここなら、わたしの店舗にぴったりかもしれないわねえ」と満更でもない様子でした。

■空き店舗撲滅の成功と課題

店舗から店舗へ移動するときにも、店舗改装の成功例を見ることができました。商店街の酒屋さんでは、従来の広い間取りを分割し、一角は本業の酒屋として利用し、別の一角は和食店に、さらに別の一角はワインバルにテナントとして貸しています。その結果、酒屋で購入したお酒をワインバルで飲む、という店舗の相乗効果も生まれているといます。

一方で、オーナーの条件が厳しい物件の例もありました。借り手の多くが家賃を月3万～4万を希望する中で、オーナーは月20万円を希望しているのです。以前、個人事業主に貸したところ、事前の想定ほどはやらなかったため、すぐに退去されたことが不信感につながっているそうです。

「大手のチェーン店にしか貸さないというのですが、そんな条件はなかなか」

と、五藤さんは言います。借りる側だけでなく、貸す側の不安を解消する取り組みが求められているようです。



▲移動中にも空き物件の説明

■着実に進む取り組み

五藤さんに今回のまちゼミでの狙いを伺いました。

「実は、商工会議所のホームページで空き店舗の紹介をしているのですが、誰も知らない、問い合わせも来ないという問題がありました。そこで、まちゼミという形で広く一般の方にもアピールすることにしましたのです」



▲ツアー後のアンケート記入

空き店舗ツアーは今回がまちゼミ初登場でした。事務局の方によると、受講希望者が何名になるか、読めなかったそうですが、ふたを開けると、多くの希望がありました。特に女性からの申し込みが多かったそうです。広くPRしたいという当初の狙いは達成されたようです。

受講後のアンケートを読んだ感想として、「今回は初めてということで、どの物件を見てもらうか、手探りで決めた部分があります。今後は参加者の皆さんの意向をあらかじめ聞いて、回る物件を決めたほうがいいかもしれませんね」

始まったばかりの取り組みですが、着実に空き店舗対策は進み始めたようです。

【取材・記事 中小企業診断士 山田圭介】

■消費税軽減税率対策窓口相談等事業について

消費増税率は令和元年10月より10%に上げられるとともに、酒類と外食を除くすべての飲食料品や週2回以上発行される新聞の税率を8%に据え置く軽減税率制度が導入されました。その円滑な実施に当たっては、生活に密着する商店街の中小小売商業者が混乱や大きな負担とならないようきめ細かなサポート体制の整備が必要不可欠です。

このため、当連合会では、消費税率の引上げや消費税軽減税率制度の導入及びその他制度変更の円滑な実施に向けて、消費税軽減税率制度の導入に伴いレジや受発注システム等の改修や事務負担等の対応が必要となる組合員さんからの消費税軽減税率等に関する相談に対応するため、専門家(税理士)を設置し、指導・助言等を実施します。

消費税関係の疑問・質問・相談がある場合、専門家が現地の店舗まで出向きお答えいたします。複数人の場合は、同一日になるよう調整をさせていただきますのでご了承ください。

ご希望の組合員さんは当連合会までご連絡ください。(実施期限 令和2年1月末日まで)

岐阜県商店街だよりは、岐阜県からの補助金を受けています。